

FMU 男女共同参画通信



第25号 June 2020

福島県立医科大学男女共同参画支援室

コロナウイルス感染の一刻も早い終息を願う今日この頃、梅雨に入りしばらくは鬱陶しい季節が続く模様です。本支援室では、今年度も「男女共同参画行動計画」に基づき取組を行って参ります。コロナウイルス感染対策で一部の行事が見送りとなりましたが、今後は状況を見ながら男女共同参画の推進に取り組んで参りますので、引き続きご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



男女共同参画推進本部長の挨拶

2020年4月1日より男女共同参画推進本部長に就任致しました錫谷です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学では性別には係わらず活躍している皆さんがいらっしゃる一方で、男性が多数を占める医師や放射線技師、女性が多数を占める看護職や臨床検査技師職、さらに女性に限定されている助産師など、職種によって男女比に大きなアンバランスがあります。このアンバランスが個人の職業の選択によるものであるのならばよいのですが、社会の制度や人々の思い込みや偏見によるものなら、それは直ちに正すべきでしょう。

男女共同参画室では職種を問わず男女とも働きやすい職場を目指し、労働環境を改善するというハード面から、古い考えに縛られた思い込みをなくすための教育を行うというソフト面まで、多彩な活動を行ってきました。

これらの活動は皆様の協力やご意見なくして実を結ぶことはありません。皆様の積極的なご参加をよろしくお願い申し上げます。



錫谷本部長

男女共同参画推進本部／男女共同参画支援室 新メンバーの紹介

■男女共同参画推進本部 本部長

○錫谷 達夫 (微生物学講座 理事(教育・研究担当))

■男女共同参画推進本部 副本部長

○小宮 ひろみ (性差医療センター 教授)

■男女共同参画推進本部 本部員

- 石龍 鉄樹 (眼科学講座 教授)
- 亀岡 弥生 (医療人育成・支援センター 教授)
- 佐藤 博子 (看護学部基礎看護学部門 准教授)
- 鈴木 朋子 (会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座 准教授)
- 関 和彦 (事務局次長(総務))

■男女共同参画支援室 室員

- 前島 裕子 (病態制御薬理医学講座 准教授)
- 各務 竹康 (衛生学・予防医学講座 准教授)
- 杉本 幸子 (看護学部成人・老年看護学部門 助教)
- 鈴木 朋子 (会津医療センター感染症・呼吸器内科学講座 准教授)

育児サポート助成事業のご案内

今年度においても育児サポート助成事業は継続して実施しております。

「急な残業で保育園のお迎えに行けない」「保育園休園日に出張、子供の世話をどうしよう」「子供が急病にかかり付添ってあげたいが、仕事が休めない」など、子育ての援助が必要な教職員の子育てと仕事の両立を男女共同参画支援室が窓口となり支援いたします。

サポート内容は次の通りです。

- ① 各サポート先の紹介
・NPO 法人こども緊急サポートふくしま
・福島市ファミリーサポートセンター
- ② 利用登録支援
- ③ 緊急時の連絡支援
- ④ 利用料一部助成

制度の詳細は、5/15 掲載の掲示板「令和2年度「育児サポート事業説明会」の開催中止と資料掲載についてのご案内」を御覧下さい。

◇問合せ先 男女共同参画支援室
内線 2807

◇アンケート調査報告書概要◇ 仕事と家庭生活の不調和 30%の職員が実感

本調査報告書の詳細は、男女共同参画支援室ホームページの新着情報として5/11に掲載しております。

■目的

仕事と家庭生活の不調和(WLC:work-life conflict)は、医療の質にも生活の質にも影響を及ぼす。本調査の目的は、本学に勤務する職員におけるWLCに加えて、職場で感じる男女性差について明らかにすることである。

■方法

本学に勤務する全3,347名の職員を対象に2017年8月にアンケート調査を実施した。2,464名(回答率73.6%)から回答があり、そのうち欠損値のない2,285名(完全回答率68.3%)のデータを分析した。

■結果

WLCがある割合は全体で約30%であり、特に30~39歳、大学教員、そして看護師において高かった。仕事と家庭生活の調和(WLB; work-life balance)実現のために必要なこととして多く挙げられたのは、「仕事量の削減・効率化、適切な人員配置」、「職場の雰囲気、上司の理解」、「勤務時間の短縮、多様な生き方の導入」であった。さらに、全体で約25%が職場での男女差別を感じており、WLCと関連していた。男性の方が男女差別を感じている割合が高く、特に「仕事の内容」および「雑務の負担」に不平等を感じていた。一方、女性は、「昇進」や「業績・評価」に不平等を感じていた。

■提言

本学においてWLCは切実な課題である。特にWLCを感じやすい年代(30代)と職種(教員と看護師)について、仕事量や勤務時間の工夫が必要である。また、職場での平等感の男女差を踏まえて、仕事の分担と評価を見直す体制が必要である。

「研究支援員の配置に係る要望調査」のご案内

ライフイベント(出産・育児・介護・看護等)を抱えた教員の研究支援を行っております。つきましては、令和2年度下半期配置分の調査を行います。

支援期間 R2年10月1日
~R3年3月31日

1. 対象者:

本学の主に医学部・看護学部・会津医療センターに所属する助手以上(大学院生も含む)の研究者(性別は問いません)のうち①~④にあてはまる教員。

- ①妊娠中
- ②家庭において、小学校6年生までの児童の主たる養育者
- ③同居・別居に問わず要介護認定を受けている親族の主たる介護者
- ④その他、上記に準ずる(家族の看病をしている等)状況

2. 支援を希望される方:

7月に配布予定の調査票にて、詳細をご確認ください。

ハラスメントの相談体制(4/1 現在)

セクハラ、パワハラ、モラハラなどのハラスメント、またはハラスメントと疑われる行為を受けたり、見聞きした場合は、ハラスメント相談員に相談いただくか、ハラスメント相談メール BOX s-soudan@fmu.ac.jp までご連絡下さい。

相談員名簿はDesknet'sに掲載しております。

文書管理→(総務課)人事・給与→ハラスメント関係→ハラスメント対策委員・相談員名簿

※相談員と関係者のプライバシーは厳守いたします。

※相談したことを理由に不利益な取り扱いはされません。

(大学内窓口 総務課大学人事係 内線2072)



福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel: 024-547-1657 (内線: 2807) / HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ

コーディネーター 橋本 にしき